国際校庭園庭連合日本支部:5 周年までの歩み

仙田考、伊東啓太郎、三輪律江、渡辺英則、内野彰裕、木村創、鮫島良一、中林忍、宮里耕太
（国際校庭園庭連合日本支部）

国際校庭園庭連合 2018 年日本大会（横浜）の開催

国際校庭園庭連合は、ゆたかな子どもたちの育ちを目指して、2011 年に米国で結成された、校庭・園庭環境の活用や改善を支援する団体・個人の国際ネットワークである。会員は日本をはじめ、欧米、アジア、豪州など世界各地に活動が広がっている。設立以来 1，2 年おきに国際大会が開催、2018 年 11 月には、初の日本大会（会場：鶴見大学。国際校庭園庭連合、こども環境研究会関東主催、こども環境学会共催）が開催され、国内 200 名以上、海外約 40 名の参加により、活発な議論が交わされた。

国際校庭園庭連合日本支部の設立、その後の 5 周年までの活動

＜日本支部設立＞

大会後、引き続き園庭・校庭・まちでの保育・教育・環境の課題を共に考え、よりよい環境・活動づくりやその支援を目指し、2019 年 5 月、「国際校庭園庭連合日本支部」を設立した。以来、講演会、研修会、情報発信、他団体との連携活動を行っている。以下、活動報告を行う。

＜講演会、研修会＞

2019 年 8 月に「設立記念大会」を開催（会場：港北幼稚園）し、大豆生田啓友氏（玉川大学）の講演や仙田満氏（環境デザイン研究所）との対談、園庭・校庭・まちの環境や活動実践者 13 組によるリレートークを行った。

実践者によるリレートーク

同年 11 月に「第 1 回校庭園庭研究実践セミナー」を開催し（会場：飯島幼稚園、飯島小学校）、園庭・校庭見学会、三橋賢次氏（飯島幼稚園）尾上伸一氏（飯島小学校）による講演会や参加者とのグループシェアリングを行った。

尾上伸一氏の講演

2020 年 7 月には「オンライン緊急ミーティング“園、学校、地域での子どもたちの外遊びや自然とのふれあいの大切さと可能性について考えよう！～ウィズ コロナ時代のなかで、わたしたちにできることとは～“」を開催（zoom）した。今春以降のウィズコロナの状況のなかで全国の園、学校、地域関係者が集い、子どもたちの活動のためにどのような配慮や工夫を行ったか情報共有し、今後の方策を議論し、またあらためて外遊びの重要性を認識した。

同年 11 月には「第 2 回校庭園庭研究実践セミナー：子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える 3～国際校庭園庭連合日本支部設立を踏まえ、子どもと自然をつなぐ、園庭・校庭・まちの環境の重要性・可能性を再考する～」を開催（zoom）し、出原大氏（松山東雲女子大学）、西村和代氏（エディブルスクールヤードジャパン）、熊谷知子氏（泉山幼稚園）による講演、高嶋景子氏（聖心女子大学）の指定討論を踏まえ、園庭・校庭における自然とふれあえる機会、自然環境の大切さについて改めて認識を深めた。

出原大氏の講演

同年 12 月からは「まち保育連続セミナー」と題し、「まち保育」についての理解を深め、実践につなげるための連続講座を開催（zoom）した。12 月に三輪律江氏（横浜市立大学）による「講演会『まち保育』のススメ―まちで育てることはまちが育つことー」を踏まえ、2021 年 2 月に研修会「まち保育的おさんぽマップを作ってみよう」にて、おさんぽマップの作り方の講習会が、また翌年 5 月の研修会で参加者によるおさんぽマップ発表会が行われ、今後のまち保育のさらなる実践が期待された。

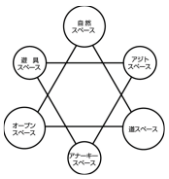
三輪律江氏の講演

2021 年度の研究セミナーは、こども環境学会 2021 年大会（長野）大会プレイベント・国際校庭園庭連合日本支部 2 周年記念企画：ロビン・ムーア教授+ニルダ・コスコ博士 講演会「ナチュラル・ラーニング（自然からの学び）：園庭・校庭、子ども、自然」を 1 年越しに、オンライン限定配信で実施した。コロナ禍だからこそ、屋外の自然環境とのつながりの機会の重要性が改めて示された。連続セミナーは「遊び心と小さな工夫で園庭を楽しくするアイデア創発セミナー」をテーマに、いたずら心を持って、園庭の環境や遊びを見つめてみようという研修となった。

ロビン・ムーア講演会 (2021. 7. 1)

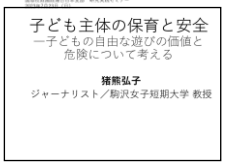
2022 年度の研究セミナーは、「子どもと自然をつなぐ、園庭の環境と活動の重要性、可能性について考える　～世田谷区立希望丘保育園の事例から」をテーマに久々の対面開催（会場：希望丘保育園、人数限定、オンライン有）で、園庭見学も行いながら、都心の公立保育園でのはらっぱの創生と子どもたちの豊かな自然への気づきについて大きな学びがあった。連続セミナーは、「6 つのあそびの原空間を手掛かりに、屋外環境の魅力を再発見してみよう！」と題し、仙田満提唱のあそびの原空間を園庭や校庭、まちでの展開の可能性について探った。

世田谷区立希望丘保育園



仙田満氏の 6 つの原空間

2023 年度の研究セミナーは、「子どもの主体的なあそびを育む園庭の環境と活動を安全の視点から考える」（会場：港北幼稚園）、そして連続セミナー「子ども主体の遊びの充実と安全との両立を学び合おう！」とし、子どもの主体的な遊びと園庭環境や活動の安全性の関係性や方策について、猪熊弘子氏（駒沢女子短期大学）のお話や、園での実践発表（鮫島良一氏（鶴見短大）、内野彰裕氏（東京ゆりかご幼稚園）ほか）やディスカッションなど、1 年を通して向き合った。実践例として鶴見短大附属三松幼稚園の視察会も行った。



猪熊弘子氏の講演

ディスカッション

2024 年 5 月に設立 5 周年を迎え、テーマの異なる 5 周年記念セミナーを 3 つ計画実施した（①保育・教育、②環境デザイン・アート、③まち保育）。

5 周年記念セミナー①子ども主体の保育・教育と屋外環境（2024 年 9 月）は、宮前幼稚園・おひさまこども園を会場に、園長:亀ヶ谷忠弘氏・副園長:元議氏による園庭の保育実践発表やディスカッション、園見学、国際大会報告、参加者による園庭等に関するポスター発表、宮里暁美氏（お茶の水女子大学）、大豆生田啓友氏の講演、鼎談を行った。

5 周年記念セミナー②園庭・校庭における環境デザイン・アート、その創り手の意義と可能性（2025 年 2 月）は、鶴見短大附属三松幼稚園を会場に、仙田満氏、難波元美氏（さざなみの森）、鮫島良一氏、木下勇氏（大妻女子大学）、仙田考氏、伊東啓太郎氏（九州工業大学）、寺田光成氏（日本体育大学）によるお話、ディスカッション、かわさきフェア報告、園見学等を行った。

5 周年記念セミナー③「まち保育」の視座からこどもとまちの未来を考える～園庭・校庭から企業緑地まで～」は、横浜市大みなとみらいサテライトキャンパスを会場に、三輪氏のまち保育に関する導入と共に、尾上伸一氏（六浦小学校）、田代隆一氏（住友林業緑化）、仙田考氏の話題提供、ディスカッションを行った。

園庭校庭まちを軸に、以上 3 つのテーマに向き合った一年となった。

＜情報発信＞

日本支部 HP のお知らせや報告、X 等では、日本支部の活動について定期的な情報発信、配信を行っている。またコロナ禍では、家庭から園・学校、地域を緑化・自然遊びを通してつなぐ「グリーンプロジェクト」（おうち栽培の推進等）の立上げを行った。

2018 年度より日本保育学会大会にて、「子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える」をテーマに、自主シンポジウムを毎年企画、開催を行っている。2024 年で 7 回目を迎えた（仙田考・渡辺英則企画）。

また、同じく日本保育学会大会にて、2022 年度、2023 年度の連続セミナーについての報告を行っている。

2022 年度には、乳幼児教育雑誌「発達」（ミネルヴァ出版）より依頼を受け、仙田考と渡辺英則監修による[特集]子どもの屋外環境 主体的なあそび、学び、育ちを支える（171 号）を上梓した。

また 2021 年度日本造園学会全国大会（仙台）のミニフォーラムにおいては、「校庭園庭環境の自然空間創出と専門家の役割、育成」をテーマに、話題提供を踏まえ、ディスカッションを行った。(企画：仙田考、伊東啓太郎、話題提供：木村創ほか)

＜団体連携＞

2019 年度より仙田考がプロジェクトコーディネーターとして、子どもの森づくり推進ネットワークとの協働プロジェクト「園庭緑化運動」の展開を行っている。2020 年度は全国モデル 3 園の園庭改善に向けた園内研修を重ね、2022 年度までにモデル園 1 期支援事業が、2023-25 年度にモデル園 2 期支援事業が動いている。

また 2022 年度より、園庭緑化運動オンライン講座を共催事業として実施している。

こども環境学会とは、日本大会以来の連携プロジェクトとして、前述の「ロビン・ムーア教授講演会」の共同開催を行った。

仙田考氏の講演

また 5 周年記念セミナー②はこども環境学会、日本景観生態学会との共催事業、セミナー③は横浜市大との両主催で実施された。

2024 年度は川崎市から委託を受け、川崎市市制 100 周年記念事業の全国都市緑化かわさきフェアにて箱庭ワークショップ、森のワークショップを開催期間中の週末に、等々力緑地会場にて実施予定である。（2024. 10-11, 2025. 3-4）

＜ISGA 本部とのつながり＞

2018 年日本大会開催後、3 回国際大会が開催された（2022:スコットランド、2023：ブラジル、2024：ベルギー）。スコットランド大会は 2020 年、ブラジル大会は 2022 年開催予定であったが、コロナ禍により、スコットランド大会は止む無くオンライン開催となり、3 年連続の開催となった。日本支部としては、スコットランド大会では前回開催大会国としての引継ぎ、ブラジル大会では仙田が招待講演、ベルギー大会では仙田と鮫島が口頭発表を行った。また仙田は ISGA 運営委員として大会前後に開催された幹部会へ参加した。ブラジル大会以降、運営委員も大会参加を行っている（鮫島、中林、宮里耕太）。

今後に向けて

ふり返れば、設立後の 5 周年までの約半分以上はコロナ禍となり、対面でのセミナー開催や見学会等の企画が難しくなり、試行錯誤の連続であった。そうしたなか、幹事やサポーター、協力機関の方々、そしてなによりセミナー等に参加くださった多くのみなさまに、支えられて歩んできた 6 年間であった。

子どもはもちろん、教職員も地域も自然も、みんなが主体的に屋外環境とかかわりながら、自然とのふれあいや外遊び、活動から、自身が気づき、思いをはぐくみ、伝えあい、自らも他者も環境も大切に思う気持ちを育てていく、そんな存在に園庭や校庭、まちがなっていったらと心より願う。

今後も ISGA 本部（国際校庭園庭連合）をはじめ、こども環境学会、子どもの森づくり推進ネットワーク、子どもと保育総合研究所など、想いを同じくする個人、団体関係者との連携も重んじながら、日本の子どもたちの豊かな屋外体験の機会と環境：園庭・校庭・まちの可能性、支援のあり方を、みなさまとともに模索していきたい。

謝辞：
国際校庭園庭連合日本大会開催（2018 年）及び日本支部設立（2019 年）、その後の活動に多大な御支援を頂きました、関係のすべての皆様に深く感謝の意を表します。

【国際校庭園庭連合日本支部】

＜設立趣旨＞

・子どもたちの豊かなあそび、学び、生活のための、校庭、園庭の環境や活動のあり方について考えます
・まち全体が校庭・園庭と捉え、まち学習やまち保育の実践をはじめ、学校の学習や園のあそび活動としてのまちの活用や、子どもたち、学校・園、地域のつながりについて考えます
・学校や園の多様なあそび、横断的な教科学習、ESD、SDGs 等の観点から、校庭・園庭・まちの環境や活動のあり方について考えます
・運動場、遊具、砂場・土場、自然（樹木、草原、芝生、自然池、菜園・果樹園・花壇、飼育小屋等）、プール、小道、築山・斜面、休憩エリア、野外劇場などの様々な校庭・園庭環境や、あそびや学習に使用可能な板、丸太、タイヤ、ベンチ、竹、一輪車、三輪車、ロープ、ネットなどの様々な可動素材や、教育者・保育者による環境構成の可能性について考えます
・幼保小、小中、中高連携等、園や学校とのつながりから、校庭、園庭、まちの環境や活動の在り方を考えます
・子どもの参画や教職員、地域のサポートの視点から、参加型校庭、園庭づくりのあり方を考えます
・校庭、園庭の国際ネットワーク「国際校庭園庭連合（International School Grounds Alliance, ISGA）」の日本支部として、ISGA との連携を軸に、海外との情報交流や、国際的な視点から日本の校庭、園庭、まちの環境・活動のあり方について考えます

〈組織〉

代表：仙田考
副代表：伊東啓太郎、三輪律江、渡辺英則(事務局長)
運営委員：内野彰裕、木村創、鮫島良一、中林忍、宮里耕太
顧問：大豆生田啓友、木下勇、仙田満
事務局：認定 NPO 法人び一のび一の 地域 remix

〈設立日〉

2019 年 5 月 26 日

〈連絡先〉

国際校庭園庭連合日本支部事務局　問合せ：info@isga-japan.com
HP：https://www.isga-japan.com　X：https://x.com/ISGA_Japan

参考文献、関連資料

1）国際校庭園庭連合ウェブサイト：
http://www.internationalschoolgrounds.org
2）国際校庭園庭連合大会実行委員会（2018）：国際校庭園庭連合 2018 年日本大会(横浜)大会プログラム，pp. 1-33
3）木下勇・仙田考監修 BIOCITY 2018 年 No. 76 特集：子どものための屋外環境～校庭・園庭から「まち」へ，pp. 8-95
4）仙田考・渡辺英則監修 発達 171 号 特集 1：子どもと屋外環境　主体的なあそび・学び・育ちを支える，pp. 2-49.
5）鮫島良一、宮里耕太、木村創、仙田考（2023）遊び心と小さな工夫で　園庭を楽しくするアイデア創発セミナー:ISGA 国際校庭園庭連合日本支部 2021 年度連続セミナー．日本保育学会大会第 76 回大会(熊本学園大学、オンライン開催)
6）鮫島良一、仙田考、渡辺英則、内野彰裕（2024）園庭環境等における子どもの主体的な遊びの充実と安全の両立の検討(1)- ISGA 国際校庭園庭連合日本支部 2023 年度連続セミナーから一．日本保育学会大会第 77 回大会（神戸大学、オンライン開催）．

註：本稿は本団体 5 周年記念セミナー①のポスター発表の内容に、一部（2024 年度セミナー①②③）追記を行ったものである。